

経 営 部 門

宮崎県川南町

山道 義孝さん

肉豚の高品質化と繁殖成績の向上が
発展の条件と考える一貫経営

—6次産業への挑戦—

第58回全国農業コンクール農林水産大臣賞



山道義孝さん（後中央）と家族のみなさん

山道義孝さんは、昭和44年に母豚7頭から繁殖経営を開始し、昭和47年に(有)宮崎第一ファームを設立した。平成12年には母豚450頭規模の豚舎を増築したが、事故率が10%を超える状況になった。そのため生産面で無理をせず、健康的に飼養できる370頭規模にまで縮小するなど、豚のストレス改善を行い、事故率を3%台にまで低減させた。

規模を縮小する一方で、地域の6農場と連携して「あじ豚」ブランドを確立するとともに、加工販売・レストラン経営に乗り出し、経営の6次産業化を図ることで、売上と収益性を高めることに成功した。山道さんの養豚経営の特徴は、以下の通り。

①高い繁殖技術を基礎とした高生産養豚経営の実現：飼養環境の改善による豚のストレス軽減、衛生管理プログラムの導入などにより、年間分娩回数2.46回、一腹当たり産子数11.5頭、母豚1頭当たり出荷頭数23.5頭と良好な成績を実現している。

②生産グループの組織化によるブランドの確立：地域の7農場で「あじ豚」生産グループを形成し、種豚、交雑方式(WLD)、飼料の統一化を行い、年間2万3000頭を出荷している。また販売先との定額販売契約、飼料購入条件の改善などを行い、高い収益性を実現した。

③加工販売・レストラン部門への進出：豚肉のカット・販売を行う株式会社「フレッシュワン」を設立するとともに、平成18年には直営店舗「ゲシュマック」をオープンし、精肉のほかハム・ソーセージの加工販売やレストランでの飲食営業を行い、「あじ豚」の安定供給と高付加価値化を図っている。さらに、小売・外食部門を包括することで消費者ニーズの把握を行い、生産部

門へフィードバックすることで生産面の改善に役立てている。

④高収益安定養豚経営の確立：高い繁殖成績などの高生産性と、関連会社への販売や年間定額販売などによる有利販売、飼料の一括購入による購買条件の改善などによるコストの引き下げにより、売上高3億3900万円、当期純利益801万円と高い収益性を実現している。

⑤後継者の育成：長男は現在、生産部門の現場責任者である農場長を務め、次男は財務管理と営業を担当し、三男はハム・ソーセージ加工に従事するなど、後継者の育成と家族全員による経営の立体化に成功した。

⑥地域の活性化への貢献：産業廃棄物としてその処理が苦慮されていた焼酎廃液を、地域の未利用資源として活用すべく、発酵飼料の豚への給与について、地域の研究機関と連携して実用化に取り組んでいる。また教育機関からの要請による学生生徒の研修や体験学習に対応して、養豚の理解促進に尽力している。

⑦養豚生産者の組織化：平成15年にみやざき養豚生産者協議会(MPC)の設立に努めるとともに、会長として組織をまとめ、さらに平成18年には日本養豚生産者協議会(JPPA)の設立に関与するなど、養豚農家の組織化による情報の共有化、意識の向上、関係団体との協調などにより養豚業の振興に大きく寄与した。

このように山道義孝さんが地域の養豚農家と共同して行った「あじ豚」の開発や生産・販売システムの構築と、加工・販売、レストラン部門への取り組みは、輸入豚肉の増加や消費の低迷などによって苦境に立つわが国養豚経営にとって、国内生産者が生き残る上での先駆的モデルといえる。

活動のようす



▲農場（繁殖部門）



▲直営店舗の「ゲシュマック」



▲農場肥育舎



▲ゲシュマック店内では、豚肉、ハム・ソーセージの販売も行う



▲「あじ豚」生産グループによる枝肉勉強会



▲農場職員とともに